

# 令和3年度 算数・数学教育研究部会（読書会）報告

第1回

令和3年5月18日（火） 午後6時00分～ 場所：総合学習センター

講師：愛知教育大学名誉教授 柴田 録治先生 元算数数学科指導員 栗田万砂夫先生

## 学び合いについて

- ★ よくできるが、指示待ちが多い。
  - ➡求答方式が主で、「正しい答えを得る」「覚える」が主となっていると正解が存在しない時代を生き抜く子どもたちにとっては、無駄で不合理な部分の多い学習時間を過ごさせることになりかねない。➡資質能力の向上の視点を持って！<主・対・深>
- ★ 教師が代わりにいつもいつも、音声化して問いかけていけば、学習者のモチベーションを上げ学習に取り組むようになるか<主体的>、学び取る姿勢の会話となるか<対話的>、学びが深まるか<深い学び> うまくいくこともある。
- ★ ※学び手が自身の問題として、関わればより生産的な学習時間になるように思われる。
- ★ 教授 ➡ 教育 （教師目線ではなく、学び手を育てることが大事）
- ★ 算数の授業が、問題解決型の学習活動でなされるようになってきていることはうれしい。その過程はいろいろあるが、一例として、問題把握（問題の理解）－解決活動（計画・計画遂行・活動の表現・発表）－振り返り（確かめ・発展）
- ★ 学び合いの中で大切にしたいこと
  - ① どんな気付きがあるか。
  - ② 子どもたちの常識を生かしてやりたい。
  - ③ 「覆」の考え方を大切に！なぜそう思えるのか。別の場合はどうか。
  - ④ 考えをつなげていくとより確かなものになっていく。

※最後に教師がまとめると、それまでの過程を大切にしなくなる。
- ★ 話し合い、学び合い、コミュニケーションの楽しさ、誤りを怖れることのない算数・数学科活動の味わうことのできるクラスをつくりたいものです。



## 割合について

- ★ 割合の言葉が難しい。日常で使わない。切迫感がない。
- ★ 割合の扱い 日常語の「わりに・・・」について、どの程度知識を持ち合わせているか
  - ➡知識がつながることで理解につながる。
- ★ 「割安」：その人の感覚 ➡精密になれば「割合」となる。
- ★ 割く（さく） ➡ 部首「りっとう」 ➡ 「刀（さく）」

もとになる方を①とする考え方

	差	倍		差	倍		
A	200円 ➡ 1000円	800円	5倍	B	150円 ➡ 900円	750円	6倍
	↓ ÷ 200	↓ ÷ 200		↓ ÷ 150	↓ ÷ 150		
	①	5		①	6		

今回は柴田録治先生と栗田万砂夫先生に「学び合い」「割合」についてご講演していただきました。短時間ではありましたが、今後の授業に生かすことのできるご講話でした。ありがとうございました。

新型コロナウイルスの影響で直接会場に来て参加する方法と Teams で参加する方法で開催しました。Teams で参加された方は視聴のみとなりましたが、多くの方が参加してくださいました。今後も状況次第では、Teams を利用して開催していきたいと思っております。多くの方の参加をお待ちしております。